

## VII 遊び(幼児期)

## 子どもにトラブルはつきもの！とは言え・・・

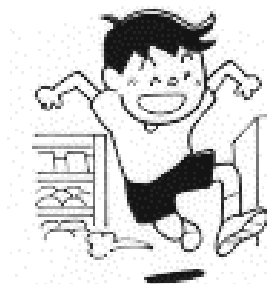


こんなことはありませんか・・・？

2歳のゆうくんは、お母さんと児童センターに遊びに来ています。最近、走ることが楽しくてたまりません。センターでも、座って見ているお母さんと、滑り台との間を行ったり来たり、ごきげんで走り回っていました。

そのときです。近くにいた女の子とぶつかって、二人とも転んでしまいました。じゅうたん敷きの部屋なので二人ともケガはありませんが、女の子は大泣きです。

女の子のお母さんがびっくりして走って来ました。



ワーク1

あなたがゆうくんのお母さんだったら、どう対応しますか？ グループで交流しましょう。

---



---



---



---

ワーク2

子ども同士のトラブルで、その対応についてうまくいったことや困ったこと、相手の保護者の対応で学んだことを交流しましょう。

---




---




---



◇他の方の意見をメモしましょう！

 いいね！

 いいね！

今日気がついたこと、わが家でもやってみようと思ったことは何でしたか？



今日からぜひやってみてくださいね。お疲れ様でした。



子どもに限らず、人はトラブルの中で成長していくもんじゃよ。危険のないようにだけ見守りながら、口を出しすぎんよう、ぐっところえる親のガマンも大切じゃのう。  
友だちとのトラブルを通して、うまくいく方法を身につけていけるとよいのお。「お互い様」の気持ちも大切にしてくな。

## ◇子どもどうしのトラブル

1歳を過ぎた頃から子どもの間でトラブルが増えてくるかもしれません。

初めはお友達と同じ場所で遊んでいても、まだ一緒に遊ぶことはあまりなく、ただ同じ場所で一人遊びをしている状態です。

少しずつ自分のものがわかるようになり、自己主張も始まりますが、周りへの配慮をするような社会性は身につけていません。

そのため、欲しいもの、遊びたいものにはすぐ手を出してしまいます。同じ場所で遊んでいる子どもの間で、このようなやりとりからトラブルにつながることもあります。おもちゃやお人形の取り合いが始まり、泣き出してしまうこともあるでしょう。

しかし、こういう経験をたくさんすることで、お友達にも気持ちがあるのだということを知っていきますので、むげに止める必要はありません。相手に怪我をさせそうなときや、友達のをなんでもとってしまうときには、間に入ったり話をしてあげたりしてください。

社会性を身につける基本は、まず家庭内からとされています。

例えば、お母さんが読んでいる本を取ろうとしたら、「今、お母さんが読んでいるのよ」「欲しい時は、貸してって言うのよ」と優しく教えてあげてください。初めはキョトンとしたり、泣き出したりするかもしれませんが少しずつ伝わっていきます。

但し、怒るのではなく優しく教えてあげることがポイントです。何度も繰り返さなければならぬかもしれませんが、根気強く教えてあげましょう。

出典：the0123アート子育て研究所「こんな時どうする？」



子育てには楽しいときも、苦しいときもあるものじゃのう。ただ、困ったときは自分だけで悩まんとじゃよ。たいていみんな同じような経験をしているもんじゃ。

人に頼ったり教わったりする中で、子どもと一緒に親も成長していけばいいんじゃよ。